

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 U.O

1. はじめに

この度、本学国際交流基金の助成を受け、2023年3月6日から3月16日までの期間オーストラリアニューサウスウェールズ州キングスクリフにて薬学語学研修に参加させていただきました。現地校 TAFE で学んだことや、ホストファミリーとの交流で学んだ文化などについてご報告いたします。

2. 現地校 TAFE について

オーストラリアに滞在する間、平日は TAFE に通い午前は英語レッスン、午後は Pharmacy Class という薬学のレッスンを受けました。

・英語レッスン

英語レッスンでは基本的な日常会話やオーストラリアの生活、文化について学びました。新しく学んだ単語やフレーズなどはノートにまとめていましたが、授業内ではノートをとることよりもグループワークや発表などが多く、発言する機会がたくさんありました。日本と異なる授業形式に最初は戸惑い、授業もすべて英語で進んでいくので不安もありましたが、わからない時は先生が違うフレーズで言い換えて伝えてくれたり、クラスの人と協力したりすることで毎日楽しく学習することができました。私のクラスでは毎日宿題があり、ホストファミリーに質問することや、アボリジニについて教えてもらうことなどホストファミリーに手伝ってもらわないといけないものが多かったのですが、それが会話のきっかけとなり夜ご飯の後に宿題をするのが楽しみとなっていました。5日間という短い期間でしたが、ホームステイ中に使えるフレーズやオーストラリアのスラングなど現地でしか学べないことをたくさん学ぶことができました。

・Pharmacy Class

薬学のレッスンは TAFE だけでなく、Griffith University やアボリジニの文化が体験できる場所に移動し学習しました。TAFE ではオーストラリアの薬局で実際に販売されているクリームや、スポーツドリンクのようなものを試すことができました。薬局グループの方の授業では、オーストラリアの薬剤師の役割や薬局で行っているサービスなどを学ぶことができました。Griffith University では薬局で働くロボットや、VR などの科学的な技術を間近に見ることで医療への興味がより深まりました。アボリジニの文化体験では、森の中を歩きながら薬として使われていた木の皮や、木になっている実などを紹介してもらいました。最後はとてもきれいなビーチで写真を撮り、アボリジニのガイドの方と英語で会話をしたり、歌を歌ってもらったりして充実した一日を過ごすことができました。



写真1 アボリジニ文化体験



写真2

3. ホームステイについて

私のホームステイ先はホストマザー1人の家庭でした。最初は家に人が少ないので少し寂しいかなと思っていたのですが、ホストマザーのお母さんの家に行ったり、近所に住むホストマザーの友人家族とバーベキューをしたりとても濃い日々を過ごすことができました。平日は学校まで毎日車で送り迎えをしてもらい、学校帰りにはビーチに連れて行ってくれたりもしました。ホストマザーが作ってくれる料理はどれもとてもおいしく、私が食べたいとリクエストしていたオーストラリアのミートパイも食べることができました。夜ご飯の後には一緒に宿題をしてもらい、オーストラリアのビーチのルールやアボリジニの文化について理解を深め、ホストマザーともたくさんお話をしました。休日にはホストマザーのお姉さん家族とプールや動物園のようなところに行きました。コアラと写真を撮ったり、カンガルーにえさをあげたりオーストラリアならではの体験がたくさんできました。4月にはホストマザーのお姉さん家族が日本に観光に来てしばらく滞在するそうなので、大阪に行ったときに会えたらいいねという話をしてくれました。今回の滞在だけでなく今後も交流を続けていきたいです。ホームステイ初日は緊張してなかなか自分の思っていることを伝えることができなかったのですが、優しく受け入れてくれたので、少しずつ緊張もほぐれ自分の意思を伝えることが出来るようになったと思います。素敵なホストマザーに出会い、充実した時間を過ごすことができ一生の思い出になりました。



写真3 動物園



写真4 家の近くのビーチ

4. おわりに

大学生活の始まりがコロナと重なり、3回生まで思うように行動できないことがたくさんありましたが、今この時期にオーストラリアに留学できたこと本当にうれしく思います。出発するまでは、自分の英語力が不安で心配ばかりしていましたが、友達と協力し合い、添乗員の方、現地の先生が優しくサポートしてくださったおかげで不安なく楽しく過ごすことができました。オーストラリアでの生活、特にホームステイを通して日本での常識が常識ではないこと、世界には本当に様々な文化があることを改めて感じました。また、自分の英語力が未熟で、聞き取れないことがあったり、自分の思いを自分の言葉で伝えることができなかつたことがとても悔しかったです。現地の方は皆さん優しく、英語が話せなくてもジェスチャーやトランスレーターを使って会話はできるのですが、今後は自分の言葉で会話できるよう、語学力の向上に努力します。

今回の語学研修にあたり国際交流基金の助成を受け、また、多くの方々にご支援いただきましたことに感謝いたします。